

第3回 仙台市情報モラル教育推進会議を開催（1月29日実施）



第3回情報モラル教育推進会議では、本事業の活動状況を確認するとともに、家庭部会が進めてきた「家庭向けリーフレットの効果的な活用」について、また、学校部会が進めてきた「小中連携を生かした主体的な啓発活動の実践」及び「1単位時間の授業をベースにした短時間授業の実践」について評価し、次年度の取組や方向性を検討しました。

【家庭部会の取組について】

平成30年度の活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報モラルに関する家庭向けリーフレットを作成し、市立小中学校児童生徒の全家庭に配付 2 PTAフェスティバルでの拡大版リーフレットの展示及び“すごろく体験”の実施
今年度の家庭向けリーフレットについての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子の対話の活発化」をテーマとした“すごろく”は活用しやすく、機会を捉えたリーフレット配付により保護者の情報モラルに関する意識の向上が図られた。 ・内容が小学校低学年では難しく、中学生には易しい。活用の仕方を工夫することで補いたい。
次年度の啓発のための取組や方向性についての提言	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で学べるゲーム的な要素を含みながら、幅広い年代に受け入れられる内容・構成を期待する。 ・小中学校で起こっているトラブルの事例、児童生徒の問題行動について、家庭と学校が情報を共有し、就学前保護者会等を利用するなどしながら、より一層の連携強化が必要である。
アドバイザーからの指導助言	<ul style="list-style-type: none"> ・正解がない問題については、子供の価値観が現われる。リーフレット活用による対話を通して、保護者として気付かされることも多いのではないかと。 ・情報モラル教育に関する学校としての姿勢や指導について保護者に知らせながら、普段の生活の中で子供たちとどのように対話していくべきかを家庭と学校が連携しながら一緒に考えていきたい。リーフレットには目指す子供の姿として、レベル1・レベル2など発達の段階を考慮した示し方を工夫したい。 ・親子での対話を重視するならばゲーム的な要素がいいのではないかと。その際、知識を与える資料性が少なくなるので、テーマを絞ることが重要である。親同士の考え方の違いが分かるような内容を工夫したい。

【学校部会の取組について】

平成30年度の活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒同士の学び合い、保護者や地域への働き掛け、学校からの情報発信に係る活動の実施 2 1単位時間の授業をベースにしたより効果的な短時間授業の開発と実践
今年度の実践についての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通して、子供たちにインターネット活用の光と影に関する知識を与えながら、子供たちが安心して使える環境作りについて、家庭や地域との連携強化を図る取組である。 ・ホームページによる啓発は、保護者も撮影した動画や写真の扱いに関するルールや危険性を学ぶことができる。
今年度の実践を踏まえた改善の方向性についての提言	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を主体とした小中連携、研修講師を依頼した業者との連携など、今後も、さまざまな立場での連携が図られるものとする。そのためにも、各活動における担当者間で情報を共有し意図的・計画的に進めたい。 ・子供たちの自己肯定感の低下によってトラブルを招くこともある。自己肯定感を高めるために、短時間の実践をどのように計画するか、その効果的な組み合わせについて工夫してはどうか。
アドバイザーからの指導助言	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の積み重ねが重要である。スマホを使っている子供を情報提供者として育てることで、リーダーシップを発揮させるチャンスにもなり、子供同士の学び合いが深まる効果が期待できる。 ・写す行為に関しては制限できない。SNSに投稿するのであれば、編集加工等の配慮があることを理解させる。“写すな”より最低限のルールを設け、トラブルにあったときの対応を保護者同士で確認しておきたい。 ・下の学年が上の学年の話聞いて未然に防ぐ、他人のトラブルの経験を聞いて自分だったらどうするか考えさせるような学習が効果的だと考える。連携する上での苦労話も担当者としては参考になるのではないかと。 ・ホームページの活用促進をねらい、“もしトラブルになったとき”の対処法について具体的な情報を発信してはどうか。トラブルが起こった際に、親子で悩まないで済むように関係機関との連携を図りたい。

子供たちの発達の段階に応じた情報モラル教育の必要性や具体的な実践等について、成果と課題を確認することができました。今年度の取組に対する提言や指導助言を、次年度の活動の柱として検討してまいります。